

令和 8 年度 法学部法律専攻

# 基礎演習 募集要項 (第 I 期第 1 次)

応募期間 : 6 月 5 日 (金) 12 : 00 ~ 11 日 (木) 12 : 50

応募方法 : K-SMAPY II (アンケート欄からエントリー)

結果発表 : 6 月 18 日 (木) 20 : 00 予定 (K-SMAPY II)

## 【注意事項】

- ◇ 各クラス 20 名を上限とします。20 名以上の応募があった場合、各教員が指定する方法（志望理由や課題の記述など）に基づく選考が行われます。また、応募者が 20 名未満の場合でも、志望理由や記述の内容によっては不合格となる場合もあります。
- ◇ 演習の内容や選考方法は担当教員によって異なるので、募集要項をよく読んで確認したうえで、応募するようにしてください。
- ◇ 募集枠に余りがある場合に限り、6 月下旬に第 I 期第 2 次募集、9 月に第 II 期募集を行います。実施は確実ではなく、希望するクラスで募集が実施されない場合もあるので、ぜひ今回の募集にエントリーするようにしてください。
- ◇ 「基礎演習」では、毎回の出席が原則です。履修中、やむを得ず欠席しなければならない場合には、必ず事前に担当教員に申し出て、その指示に従うようにしてください。

## 【掲載場所】

國學院大學ホームページ :

[トップページ](#) > [在学生・保証人の方へ](#) > [授業・履修](#) > [演習・卒業論文等](#)



担当教員名	川合 敏樹				
担当教員の専門分野	行政法・環境法		開講曜時	木曜4限	
<b>演習の概要</b>					
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	公法分野を素材にグループ・個人での作業を通じて法律学の基礎的な知識・技術の修得を目指したい人				
授業のテーマ	法律学に取り組んでいくための基礎的な知識・技術の修得を目指す				
授業の目的・内容	<p>これまで1年次前期の「民法入門」などで法律学に取り組んできて、法律学はおもしろいと思うけどどう学習すべきかまいち掴めない方や、法律系科目がより高度になるのにあわせて学習を深めていきたいという方などがいると思います。法律学（特に実定法学）は職人芸みたいなところがあり、最初は掴みどころがなくても、必要な「お約束」がわかってくると、俄然おもしろくなってきます。</p> <p>そこで、この演習では、公法分野（特に行政法）を素材としながら、これからみなさんが法律学に本格的に取り組んでいくうえで必要な基礎的な知識や技術の修得を目指します。より具体的には、六法を利用したり条文を読解・理解したりすること、身近な素材や想定しやすい物事を法学的に検討すること、法律学に特化したインプット/アウトプット作業、必要な判例・学説・文献などの検索・入手、判例・学説などの読解をもとにした報告や議論、それらをもとにした個人でのレポートの完成などを体験していきます。</p>				
教科書・参考書	特に指定せず、授業内容に応じて適宜指示・紹介をします。				
授業の進め方	<p>授業では、主にグループに分かれて、メンバーとのコミュニケーション・共同作業をふまえながら、各回のさまざまな課題に取り組んでいきます。第10回～第14回のグループ報告の内容は、最終的には個人で学期末レポートとして完成させることを目指します。</p> <p>ただし、履修者数に応じて、授業の内容や進行の一部を変更する可能性もあります（詳細は第1回授業の際に説明します）。</p>				
身につくスキル	資料の収集	○	文章の読解	○	答案の作成
	プレゼンテーション	○	文章の作成	○	
	協同作業	◎	ディスカッション	◎	
評価方法	授業への参加の状況（授業中の発言や取組みなど）、課題（グループ発表や学期末レポートなど）の出来を中心にして成績評価を行いません。				
選考方法	志望理由により選考します。応募時の自由記述欄に本演習の志望理由を400字程度で記入してください。				

授業回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	六法を利用する 条文を読んで理解する①
第3回	六法を利用する 条文を読んで理解する②
第4回	物事を法学的に考える①
第5回	物事を法学的に考える②
第6回	必要な情報を入手する
第7回	判決を読む・理解する・議論する①
第8回	判決を読む・理解する・議論する②
第9回	判決を読む・理解する・議論する③
第10回	グループによる報告と議論①
第11回	グループによる報告と議論②
第12回	グループによる報告と議論③
第13回	グループによる報告と議論④
第14回	グループによる報告と議論⑤
代替授業	レポート課題の完成

担当教員名	佐古田 真紀子				
担当教員の専門分野	民事手続法	開講曜時	木曜5限		
演習の概要					
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	民事裁判実務に興味のある人、抽象的で小難しいと感じる法律を具体的に理解したい人、グループ・ワークが好きな人				
授業のテーマ	模擬裁判をやってみよう				
授業の目的・内容	<p>この演習では、具体的な事件を題材として受講生がロール・プレイを行い、民事裁判を実演します。この活動を通して、法の適用過程や民事訴訟制度についての理解を深めること、ひいては各々の立場に立って法を適用してみることで、法律を学ぶ意味を体感することを目的としています。</p> <p>前半では、ドラマの鑑賞や裁判所での法廷傍聴を通じて実際の民事訴訟についてイメージできるようにするとともに、訴状・答弁書・準備書面などの書類を作成します。後半では、弁論準備手続、証人尋問、当事者尋問等を実演した後、受講生のみなさん自身で法を適用し、判決書を作成します。これらを通じて民事訴訟の一連の流れを体験します。</p> <p>模擬裁判を進めていくにあたっては、予習として動画を視聴したり、関係する条文や概説書を丁寧に読み込むなどして知識を習得した上で、民事訴訟法の規定に則って手続きを行うことが求められます。</p>				
教科書・参考書	民事手続法概論の授業で使用している教科書				
授業の進め方	基本的に、原告チーム、被告チーム、裁判官チームに別れ、グループ・ワークで活動を行います。チームごとに、その都度、書面の作成等の課題が課されます。なお、民事訴訟法については、同時に開講する民事手続法概論の授業を必ず履修して、学修してください（いずれの教員の授業でも可）。				
身につくスキル	資料の収集		文章の読解	○	答案の作成
	プレゼンテーション	○	文章の作成	○	
	協同作業	◎	ディスカッション	○	
評価方法	平常点（出席状況、参加態度、提出書類）				
選考方法	志望理由により選考します。本演習を志望する理由をK-SMAPYIIの自由記述欄に500字以内で入力してください。				

授業回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	民事訴訟の流れを知る②
第3回	【模擬裁判①】 訴状を作成する
第4回	【模擬裁判②】 答弁書を作成する
第5回	【模擬裁判③】 第一回口頭弁論
第6回	裁判傍聴
第7回	裁判傍聴
第8回	【模擬裁判④】 弁論準備手続
第9回	【模擬裁判⑤】 弁論準備手続
第10回	証明責任について学ぶ
第11回	【模擬裁判⑥】 集中証拠調べ（証人尋問・当事者尋問）
第12回	【模擬裁判⑦】 集中証拠調べ（証人尋問・当事者尋問）
第13回	【模擬裁判⑧】 合議・判決書作成
第14回	【模擬裁判⑨】 判決言渡し・振り返り
代替授業	民事訴訟の流れを知る①（オンデマンド型授業として第2回授業の前に実施）

\* 上記日程は模擬裁判の進行状況により変更になることがあります。

担当教員名	山本 健太郎				
担当教員の専門分野	政治学		開講曜時	木曜3限	
演習の概要					
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律の勉強から一度離れて、広く社会に関心を向けてみたい人</li> <li>・グループディスカッションが好きな人</li> </ul>				
授業のテーマ	社会問題について考え、議論する				
授業の目的・内容	<p>今まさに進行しているさまざまな社会問題について、どのような背景があり、必要な対策はいかなるものなのか、ゼミ生同士で議論をして、理解を深めていくことを目指します。担当教員の専門は政治学（特に現代日本政治）ですが、政治や日本社会の問題に限らず、各回ごとに幅広い内容のテーマを取り上げる予定です。</p> <p>現時点で想定しているテーマは以下になります。内容は、なるべくホットなものを取り上げる関係で、変更の可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSに潜む問題：炎上、マネタイズ、陰謀論など</li> <li>・「世代ガチャ」はあるか：就職氷河期世代</li> <li>・高市人気を考える：「サナ活」の影響</li> <li>・トランプのアメリカ</li> <li>・悪化する国際環境とどう向き合うか</li> <li>・民主主義の未来</li> </ul>				
教科書・参考書	教科書は用いません。毎回の資料や論文は教員で用意して配布します。				
授業の進め方	現代社会に存在するさまざまな問題について論じた短い文章を元に、教員が提示したテーマに沿ってグループで議論しながら進めていきます。グループは毎回異なる編成とし、教員が指示します。終盤には、ゼミ生個人で関心を持つ社会問題について簡単なプレゼンテーション（ひとりにつき15分程度）を行ってもらいます。				
身につくスキル	資料の収集	○	文章の読解	○	答案の作成
	プレゼンテーション	◎	文章の作成		
	協同作業	◎	ディスカッション	◎	
評価方法	平常点（ゼミに出席したうえで、議論にどの程度貢献したか+プレゼンテーションの完成度）を総合的に評価します。				
選考方法	①ゼミの志望理由と、②最近関心を持っている社会問題について、合わせて400字程度でK-SMAPYIIの自由記述欄に記載してください。				

授業回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	①SNSと選挙
第3回	②陰謀論にはまる構造
第4回	③「サナ活」の実態
第5回	④就職氷河期という問題
第6回	⑤少子化と人口減少
第7回	⑥トランプが変えたもの
第8回	⑦「戦間期」は終わりつつあるのか
第9回	⑧日本はどう振る舞うべきか：高市政権のかじ取り
第10回	⑨民主政治に未来はあるか
第11回	最終プレゼンテーション（1）
第12回	最終プレゼンテーション（2）
第13回	最終プレゼンテーション（3）
第14回	最終プレゼンテーション（4）
代替授業	まとめと振り返り